

ほめる・認める・はげます

浅口市教育委員会が作成した「創る 未来の学校」のパンフレットには、子供たちの9年間の学びと育ちをつなごう・・・と書かれてあり、「浅口市の5つのキラリ」が掲載されています。そして、★キラリ3には《子どもたちの活動のキラリ》認め、ほめ、はげますことで子どもたちの教育活動を高めます。という項目があります。先日、鴨方中学校にお邪魔した際にも、校長先生が「ほめ言葉を大切にしている」と言われ、上級生が下級生に向けて、ほめ言葉の大切さを伝授する活動に取り組むこともうかがいました。小学校に行くと「ぼかぼかことば・チクチクことば」などの具体例を掲示してある学校もあるように、ほめ言葉を大切にする教育が進められています。それでは具体的にどんな言葉があるのでしょうか。

〈チクチクことば〉 また？ 何で？ いい加減にしない ちゃんとしない 頑張りが足りない やる気がない もういいです 考えれば分かるでしょう 違います ふざけると そもそもあなたは・・・ 甘えとる 他人の迷惑です 足を引っ張るな わがままです 普通は・・・ だからぁ～ もう知りませんよ 困るのはあなた(たち)ですよ あなた(たち)のために言ってるのです いつか後悔しますよ

〈ぼかぼかことば〉 おおー！ さすが！ すごい！ なるほど 確かに いいなぁ そうだよね 言えてる！ やったね！ それぞれ！ ナイス 成長したね もっと聞かせて 助かるわ 頼りになる 面白い(考え)だね 感動した！ 頑張ったね 良かったよ 知らなかった！ 大丈夫ですよ ホットした 得意だね 似合ってる 嬉しい パッチリ それ好きだな あなた(たち)だからできたんだね 上手だね

いかがでしょうか？！ どちらの言葉を使うことが多いでしょうか。

さて、ほめ言葉の大切さは誰もが納得するところですが、先日届いた会報にこんな調査結果が掲載されていました。

「親が子供を叱ることの大切さ」(全国連合退職校長会調査研究部)

子供は叱られる権利があり、親は又これを叱る権利があるのである。良いことも悪いことも勝手に、少しも叱られることも正されることもない子供は、決して大切にされている子供ではなく、むしろ虐待されている子供である。(賀川豊彦:大正・昭和期のキリスト教社会運動家、社会改良家)

子供の成長にとって、「叱られる・ほめられる」は極めて大切なことである。「叱るべき時に、的確に叱ること」の重要性を追求し、その意義を明らかにしたい。今年度は、予備調査として、叱られる側の子供の感じ方や考えを調べてみた。

(1)「叱られた原因」について

- ①学校や学習塾の勉強に関すること
- ②ゲームに関すること
- ③きょうだい関係に関すること
- ④反抗、わがまま、帰宅時間など

(2)「叱られて心に残った」ことについて

①「叱れた直後の気持ち」について

『やっちゃった、ごめんなさい、自分が悪い』等の受け入れや反省も若干あるが、『いやだった、怖かった、イライラする、そんなに怒らなくても』などの感情が先行した反応が多かった。

②「今思うこと」では、『私にも言い分がある、納得していない』などもあるが『後悔

している、気を付けている、自分の行動が変わった』など、叱られていることをプラスに受け止めている反応が極めて多かった。ただ、『特に何とも思わない』という反応が目立ったのが気になるところである。★

③「叱られたことで、心に残っていること」を尋ねた学校の回答あった、次のような記述を大切にしたい。

- ・家に帰ったら父も母もいないので、友達の家に行った。遅くなって連絡があり家に帰ると、母が顔を真っ赤にして僕のほほをたたいた。母の顔の二筋の涙が忘れられない。
- ・弟が母と口論していて、「じゃあ死ぬね！」と乱暴な言い方をしたら、母が必死になって怒った。自分がカチンと来たから怒るのではなく子どものために怒っているのがわかった。嬉しかった。
- ・野球の試合の後、相手チームの悪口を言ってしまって、僕の応援に来ていた父に猛烈に叱られた。今でも反省の気持ちがたくさんある。

(3)「親が子供を叱ることについて、あなたが思うこと」について

①全体を通して、肯定的に受け止めている子供が半数以上である。理由としては以下のようなことである。

- ・将来のことを考えて叱ることは大切
- ・親として当然の事
- ・叱るのは親の愛情
- ・悪いことをしたのに叱られないのは見捨てられたこと
- ・うるさいと思ったこともあるが、今は有難い
- ・私のことを気遣っている証拠
- ・自分のいけないところを直す機会になった

②一方、否定や親への注文としては

- ・理由を聞かないで叱らないでほしい
 - ・一方的で不公平
 - ・親のストレスをぶつけないで
 - ・暴力はやめてほしい
 - ・しょっちゅうだと悲しくなる
 - ・たまには褒めてほしい
- などが目立った。

褒めること、叱ること、その場その場に合った大人の対応が、子供たちの将来に影響することもあると思います。相手に伝わる言葉のチョイスは「何を言いたいか」ではなく「何を聞きたいか」を大切にすることだと聞いたことがあります。つまり、子どもをしっかり見て、感じて、今すべき対応を子どもの中から探してく作業が、我々大人に求められているのではないのでしょうか。下線★のような思いが出てくるのは、大人の関わり方に問題

があるのでしょうか。気になります！

コロナ禍で自粛警察なるものが出現し、国全体が他人に対して厳しい目を向けるようになっていきます。「許す(恕)」という日本人の優しい心が、失われかけているようで危機感を感じています。

左は金子みすゞさんの詩です。相手を思う気持ちがいっぱいつまっていて、他者に対する思いやりの気持ちが溢れています。こういう詩に心が震え、こんな詩が書けるような子どもを育成していけたら、大人はその役割を果たしたといえるのかも知れません。

露
誰にも言わずにおきましょう
朝のお庭のすみっこで、
花がほろりと泣いたこと。
もしも噂がひろがって
蜂のお耳へはいったら、
わるいことでもしたように、
蜜をかえしに行くでしょう。